

リハケアNEWS

Izumo Reha Care Net Newsletter



出雲リハケアネット事務局

〒693-0033 出雲リハケアネット事務局 Tel/0853-21-2733 Fax/0853-24-2906/homepage :出雲リハケアネットで検索

第3回リハ塾いずも Piece up 120名で熱い討論



出雲保健所主催の事例検討会を出雲リハケアネットが企画運営を担当し「第3回リハ塾いずも Piece up」として医師、ケアマネ、セラピストなど多職種120人の参加で開催されました。リハケアネット代表の酒井Drのワンポイントレッスンの後、清流園在宅介護支援センター、介護老人保健施設寿生苑からの事例報告をモデルに13のスマーグルグループに分かれて事例検討を行いました。

もっと医療・介護の連携を！

利用者さんの
想いを大切にするためには



酒井康生医師
(島根大学整形外科)

事例検討（認知症高齢者をどうやって支える）では整形疾患で退院された認知症があるが活発に活動したい利用者（患者さん）の想いをどのように支援していくかを実際の事例の報告をモデルにして討論しました。

今回のワンポイントレッスンは「装具・車いすの相談にどう対応しますか？」としておきたい処方のための知識でした。酒井医師（島根大学整形外科）が装具を作るに当たった際の制度の仕組みや注意すべきポイントをわかりやすく解説しました。とりわけ装具を処方する委託医療機関については判定会の対応のみとなることから「判定医の診察を希望する場合は必ずかかりつけ医の紹介状を持って受診してもらいたい」と強調しました。

制度を理解して 適切な装具の処方を

どのグループでも支援するに当たって一番重視したのは利用者本人と家族の希望や要望をいかに大事にするかという現場職員らしい視点でした。それらを誰がどのように本人、家族から引き出していくのか、そして事業所の枠をこえた多職種でどのように情報共有しゴールとするのがポイントとなりました。また、支援の方法としては認知症があるのでフォーマルサービスは勿論のこと親戚や地域の支援などインフォーマルサービスを活用することが効果的であると結論づけました。配食サービスやコミセンの活用など様々なアイデアが提案されました。

参加者の熱いディスカッションに時間は不足気味でしたが中身の濃い2時間となりました。

会場：出雲保健所

